



# JOGMEC カレント・トピックス

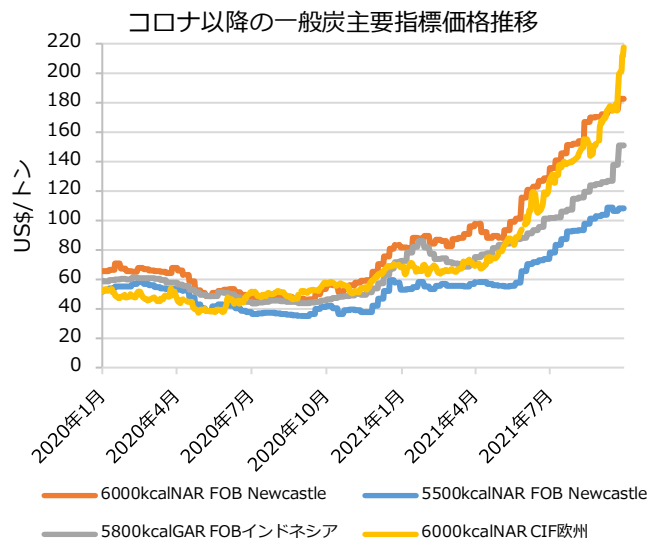
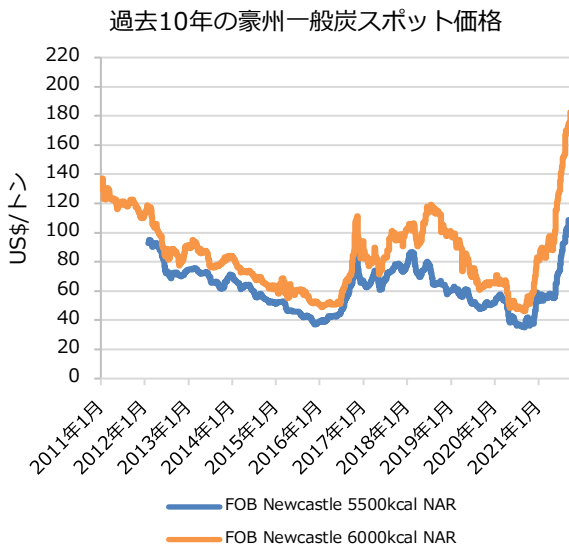
独立行政法人 石油天然ガス・金属鉱物資源機構

## 石炭価格動向（2021年9月）

石炭開発部石炭開発課 國吉 信行

- ・石炭価格はコロナ感染拡大の影響による需要急減により一旦は大きく落ち込んだが、その後の経済活動再開による需要急回復に供給が追いつかず、2021年に入り急上昇が続いている。
- ・天候要因や移動制限等による生産障害も多く発生しているが、近年の石炭資源に対する投資の減少及び多くの企業の石炭事業からの撤退による寡占化の進行や将来の需要の不透明感により、石炭生産企業の多くが新規の投資や雇用を伴う増産に慎重となっていることが背景にある。
- ・9月は上記の基調に加え、石油・ガス価格上昇につれて、石炭価格も上昇が加速した。

### 【一般炭】



出所：Argus Media Limited (<https://www.argusmedia.com/en>)

### 《概況》

東アジア（日韓台）の需要は一服し、豪州一般炭価格は9月半ばに一旦上げ止まる兆しを見せたが、中国国内の石炭不足が改善しないことに加え、インドでも多数の石炭火力発電所において石炭在庫が逼迫、欧州における天然ガスの不足及び価格高騰により石炭火力の稼働が増加していること等の影響から、一般炭価格は更に上昇した。

高品位一般炭(6000kcal/kg)のFOB 豪州 Newcastle スポット価格は、8月末の約170ドル/トンから9

月末には180ドル/トンを上回った。欧州着の一般炭価格は近年ではアジアよりも概ね安価に推移していたが、需要の急増により9月下旬には豪州炭を上回る水準に急騰している。また、中国が豪州からの石炭輸入を停止した2020年秋以降、インドネシア炭価格が同等の発熱量の豪州炭を大きく上回っている。

#### 《需給動向等》

##### 〈需要国〉

###### (中国)

- ・ 8月の石炭生産量は前年同月比+0.8%の335百万トンとなり、7月としては2018年以来の低水準であった前月よりも6.7%増加したが消費量の増加に追い付いていない。火力発電量は前年同月比+0.3%の516.7TWhと、1~7月の前年同期比+14.7%から急減速した。政府によるエネルギー消費抑制や景気減速による工業生産の伸びの鈍化に加え、石炭不足の影響も大きいと考えられる。
- ・ 中国国内の一般炭の指標である5500kcal/kg炭のFOB渤海湾スポット価格は、9月末には1,500元/トン(約230ドル/トン)を大きく超えている模様。(投機的動きを抑制したい政府の意向を受け、中国の情報サイトはスポット価格の公表を停止している。)
- ・ 発展改革委員会は9/29の発表で、冬期のエネルギー供給確保のため国内炭の増産に加え、輸入量の増量を指示している。

###### (インド)

- ・ インドの8月の総発電量は前年同月比+15%の137TWhとなり、月度として過去最高。石炭火力発電量も+23%の89TWhと雨期(6~10月)としては過去最高に達した。
- ・ 発電量が急増する一方、雨期による石炭生産及び輸送の停滞から発電所の石炭在庫量が8月から急減しており、9月末には総在庫量808万トン、平均維持日数4日間となり、維持日数8日間以下の危機的な発電所は104か所、127GWに及んでいる。インドでは過去にも再三モンスーン期に石炭在庫が危機的な水準まで減少する事象が発生しているが、今年はコロナで膨らんだ石炭在庫を減らすべく、輸入量を抑制し、国内炭を優先使用してきたことに加え、7~8月には国際市況高騰からインドの発電所における石炭輸入量が一段と減少したことも在庫減少に大きく影響している。

###### (韓国・台湾)

- ・ 韓国の一般炭輸入量は7月に前年同月比+26%の1,083万トンに急増したが、8月は+6%の791万トンと通常のレベルに戻った。但し、豪州からの輸入量は前年同月比+55%の393万トンと高水準の輸入が続いている。
- ・ 台湾の8月の石炭輸入量は前年同月比+8%の722万トンとなり、2017年5月以来の高水準となった。特に、豪州からの輸入量は+39%の465万トンと大きく増加している。

###### (日本)

- ・ 日本の一般炭輸入量は7~8月の合計で前年同期比+22%の2,042万トンとなり、2018年の2,112万トン以来の高水準となった。

##### 〈供給国〉

###### (インドネシア)

- ・ インドネシアの1~7月の石炭輸出量は前年同期比+3%の246.8百万トン。2019年1~7月比では▲

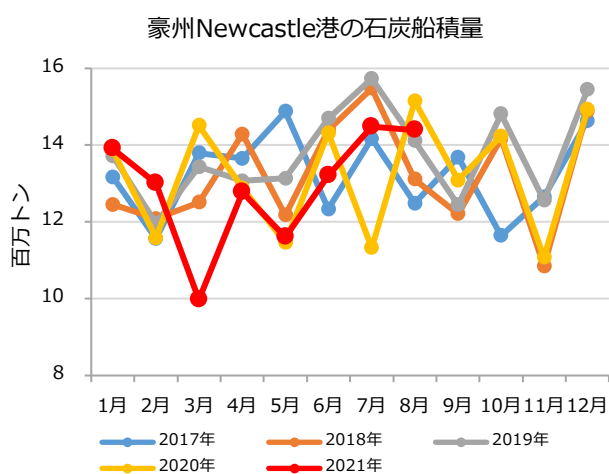
8%と供給回復が鈍いことが、価格高騰に影響している。

- ・インドネシア政府は8月に国内供給義務（DMO）の基準を充たしていない石炭企業の輸出を停止したと発表。その後、DMOの履行が確認できた数社の停止を解除したが、供給量のさらなる減少が危惧される。

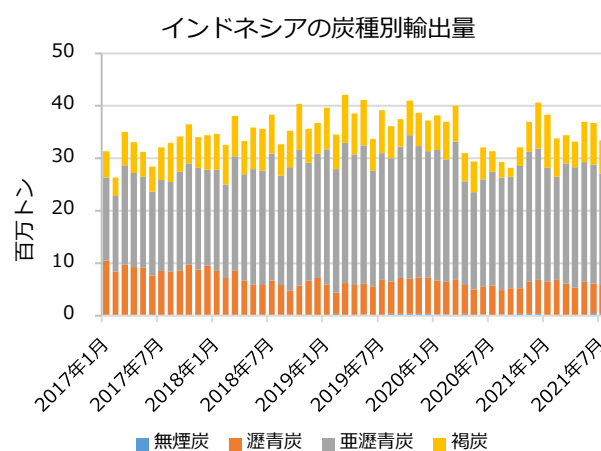
（豪州）

- ・一般炭の最大の輸出港である Newcastle 港の8月に石炭船積量は前年同月比▲5%の14.4百万トン。1～8月累計では前年同期比▲2%の103.4百万トン、2019年同期比では▲6%と輸出量の減少が続いている。

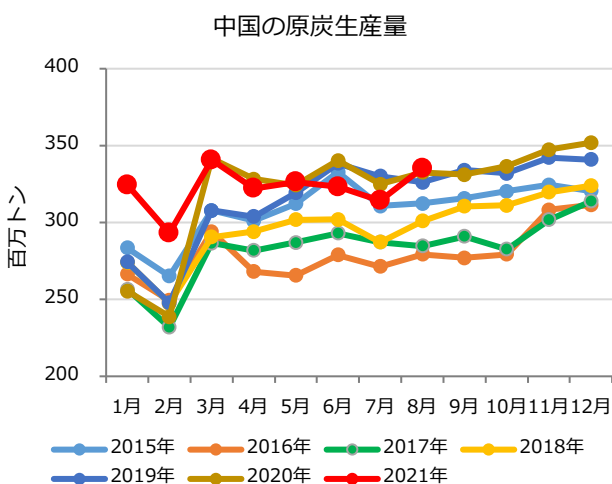
〈参考資料〉



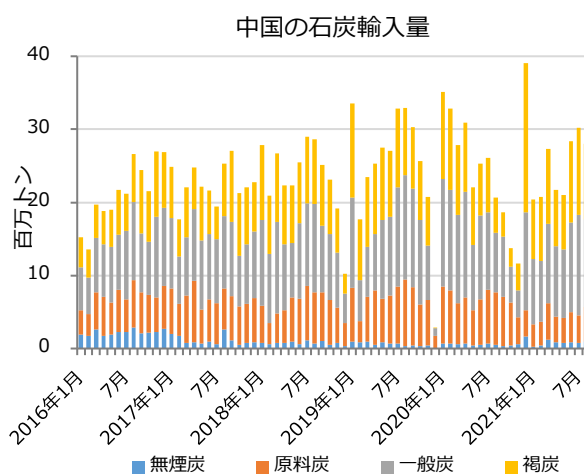
出所：Newcastle 港ホームページ



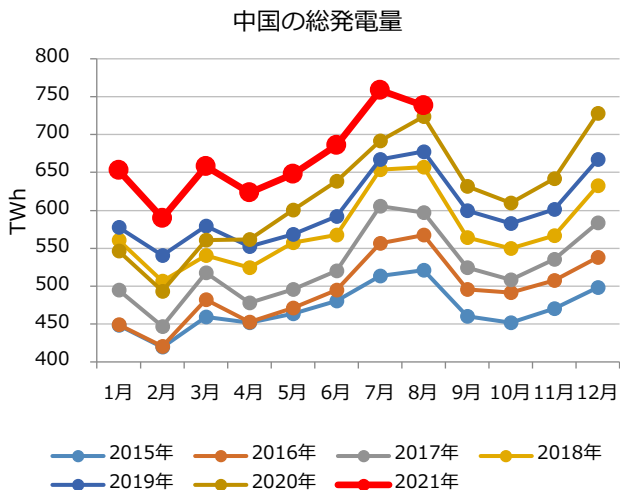
出所：インドネシア統計局



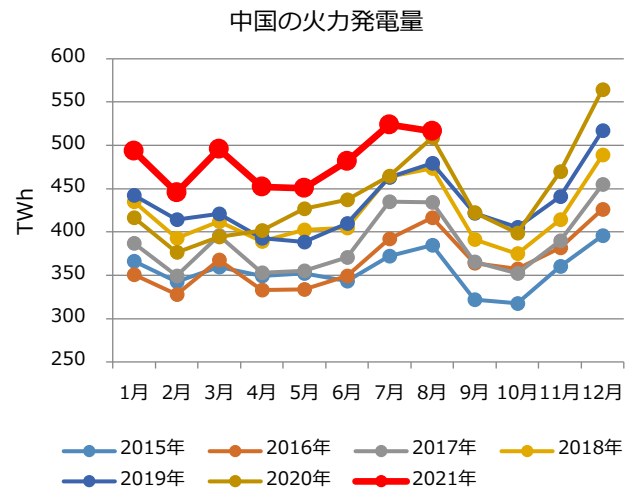
出所：中国国家統計局



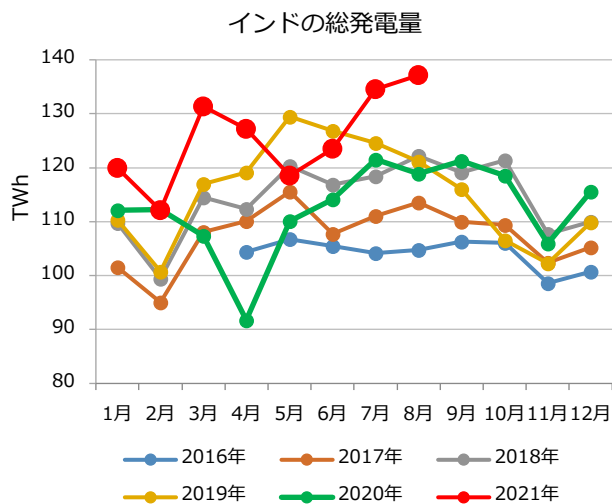
出所：中国海関総署



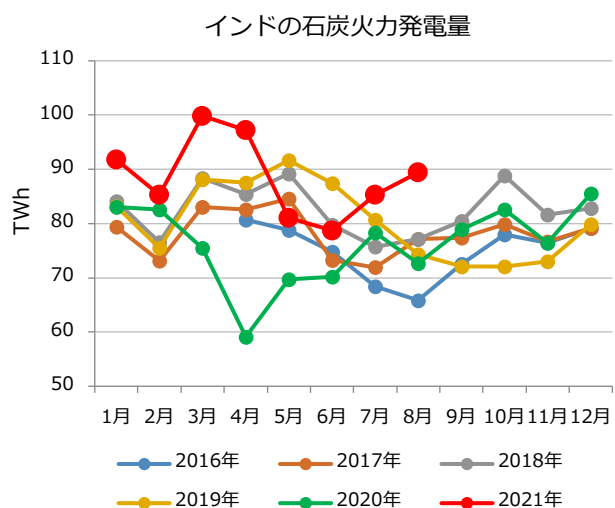
出所：中国国家统计局



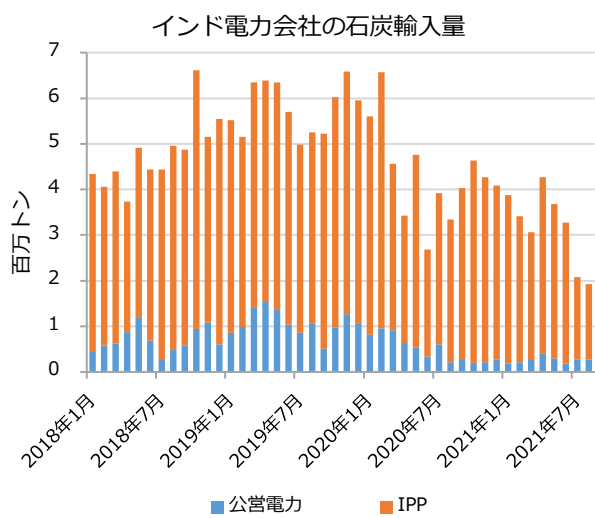
出所：中国国家统计局



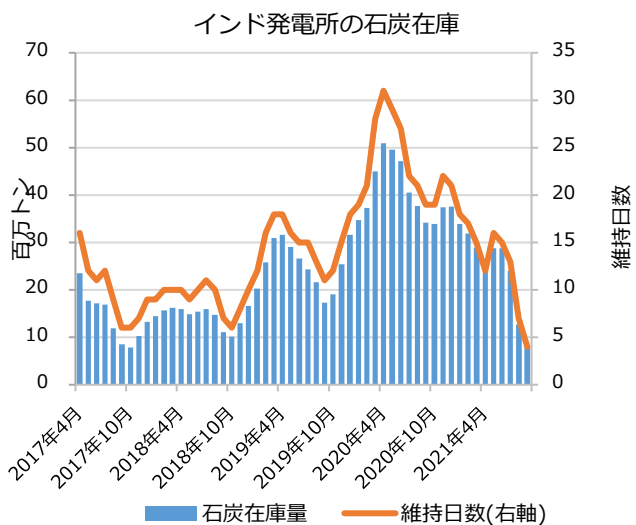
出所：インド中央電力庁



出所：インド中央電力庁



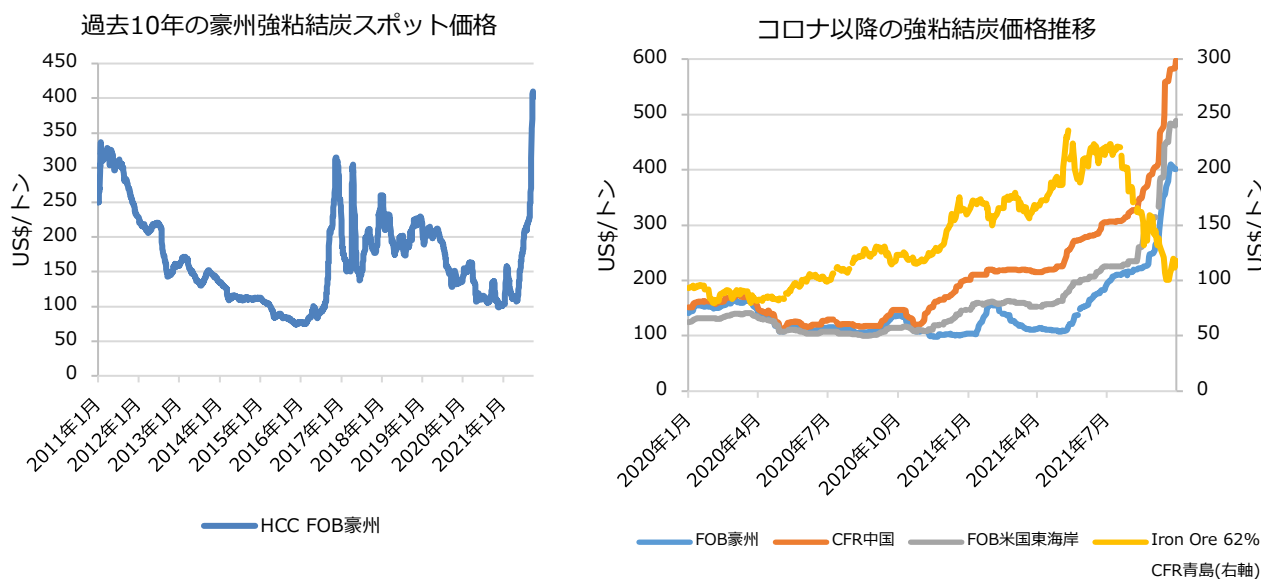
出所：インド中央電力庁



\* 各月末の数値

出所：インド中央電力庁

## 【原料炭】



### 〈概況〉

世界的に鉄鋼生産が堅調な一方、原料炭のスポットの供給量が限定的な状態が続いており、9月の原料炭価格は急激な値上がりとなった。中国の鉄鋼生産量は減少傾向にあり、輸入依存度の高い鉄鉱石価格は需給緩和から急落したが、原料炭は国内生産の停滞及び従来の主要輸入元（豪州、モンゴル）からの輸入停止や減少により需給がひっ迫している。中国による継続的な調達により北米炭価格が暴騰し、それに連れて豪州炭も過去最高値に高騰した。

### 《需給動向等》

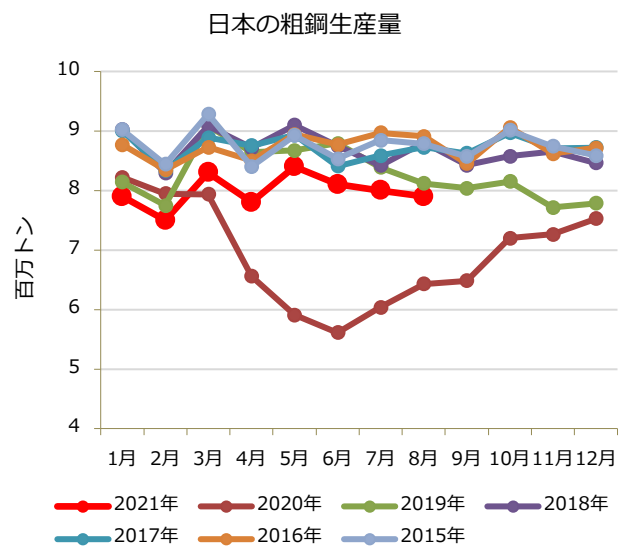
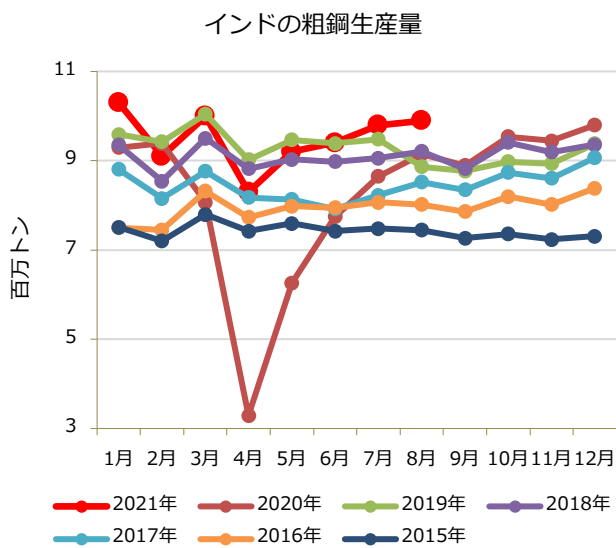
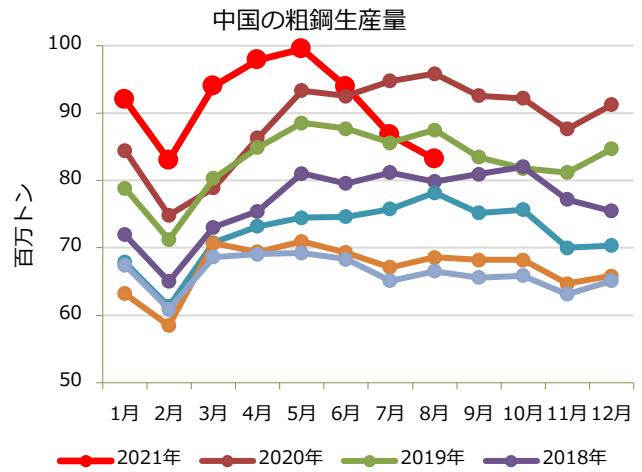
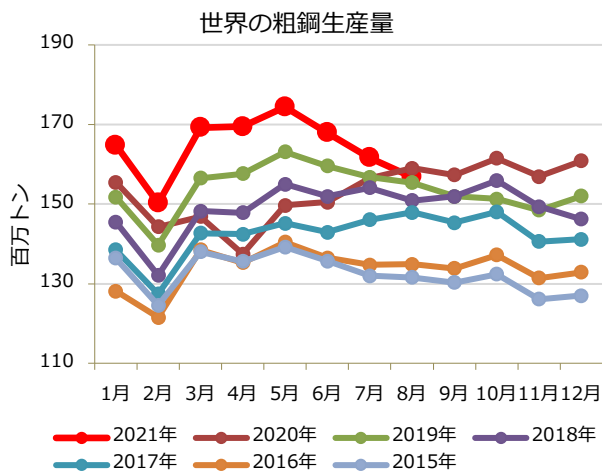
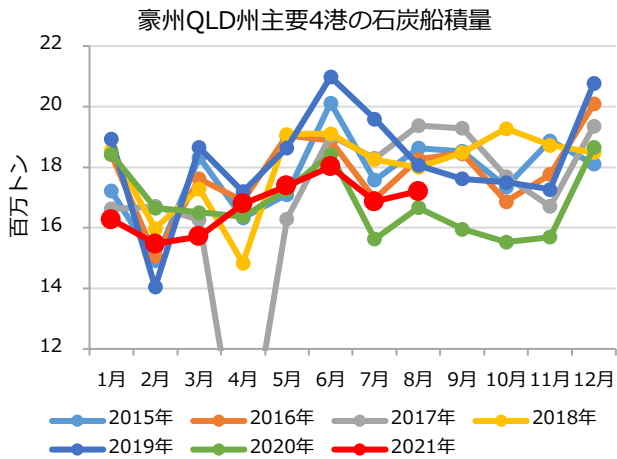
#### 〈需要国〉

- ・ 世界：世界の粗鋼生産量は、中国が牽引してコロナの影響による落ち込みから急速に回復し、昨年8月以降前年比プラスが続いていたが、8月は中国の急減速の影響で1年ぶりに前年同月を下回る（▲1.4%）156.8百万トンとなった。但し、中国以外の合計は前年同月比+16.5%、2019年同月比+8.4%と大幅に増加し、8月としては過去最高となっている。
- ・ 中国：世界の鉄鋼生産量の5割以上を占める最大の生産国である中国では、建設や自動車等の需要減少に加え、政府によるエネルギー消費抑制を目的とした減産指示により粗鋼生産量は7月以降前年同月を下回っている。8月は前年同月比▲13.2%の83.2百万トンと大きく減少した。

#### 〈供給国〉

- ・ 最大の原料炭輸出元である豪州クイーンズランド州の石炭輸出量の回復は鈍く、主要4港の8月の船積量は前年同月比+3%の1,720万トン、1~8月累計では前年同期比▲2%、2019年同期比▲9%の1億3,372万トンにとどまっている。

〈参考資料〉



おことわり：本レポートの内容は、必ずしも独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構としての見解を示すものではありません。正確な情報をお届けするよう最大限の努力を行ってはおりますが、本レポートの内容に誤りのある可能性もあります。本レポートに基づきとられた行動の帰結につき、独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構及びレポート執筆者は何らの責めを負いかねます。なお、本資料を引用等する場合には、あらかじめ独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構から許可を受けてください。